

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1 ページ】

【Ⅰ. 事業全体の取組について】

✧ 国際化

国際機関、開発援助機関、外国政府等の奨学プログラムの拡充、新たに毎年最大9名分の企業冠奨学金を創設、南魚沼市のふるさと納税寄付に「国際大学応援と交流の推進コース」を立ち上げるなど、外国人志願者へ広く門戸を開放し、優秀な外国人留学生の受け入れを促進している。一方で、この国際的な学生組織を教育・研究面、生活面で支える教職員の多様化にも取り組んでいる。例えば、女性教員の比率は、ポジティブ・アクションを推進し、事業開始前の10.4%（5人）から22.0%（11人）に上昇した。また、外国人職員等の割合は事業開始前の5.1%（2人）から15.1%（8人）に増加した。これらの取り組みによって、国際通用性を備えたグローバルな教育・研究環境を構築している。

学生の流動化の拡大について、2021年度に開設した「国際社会起業家プログラム」は国内外でのフィールド実習を組み込み、日本人学生に占める3か月以上の研究派遣率が、事業開始前の0%（0人）から40.7%（11人）に急上昇した。協定校との交換留学も含めて、日本人学生の海外経験を促進し、「海外で活躍する力」を持った日本のグローバル・リーダーの育成・輩出を実現している。

留学支援体制について、学寮の24時間英語管理体制の構築、英語で対応可能なカウンセラーの採用、カウンセリングルームの開設、地域の医療機関との医師派遣協定の締結など生活支援体制を整備し、学生・教職員の身体・精神面の支援体制を充実させている。

また、本学は開学以来、日本語クラス以外のすべての科目を英語で開講しているが、本構想では日本語教育の拡充にも取り組み、e-learning教材を作成して入学前教育やブレンDED学習に活用している。日本語学習動画10本の総再生回数は100万回を超え、学生だけでなく多くの日本語学習者に利用されている。

✧ 教育改革

国際大学TA規程を新たに制定し、これまで必修科目に限っていたTA制度を必修科目以外へ拡充した。これによって、学修支援の充実および実質的学びの時間の確保のほか、TAへの教育経験の提供およびそれによる担当科目への理解度向上が図られている。また、国際大学チューター規程を制定し、特定の奨学金受給者のみに提供されていたチューターによる個人指導を、すべての成績不振者への支援として制度化し、よりきめの細かり学修支援を行っている。加えて、2021年度から各研究科の授業評価方法を統一し、ほぼすべての科目について授業評価を実施している。

✧ ガバナンス改革

大学IR機能の強化・充実について、学内システムの改修や既存の授業評価の内容改善、各種調査によるデータ収集・分析をすることで、エビデンスに基づいた内部質保証システムによる大学運営体制を整備した。これらによって、環境の変化に応じて大学自らが変革する力を強化している。また、意思決定機関等への外国人の参画も進め、多様な視点や意見を大学運営や教学改革に取り入れることで、国内外の動きを見据えた意思決定を行っている。

✧ 大学の特性を踏まえた特徴ある取り組み

日本・グローバル開発学プログラム（2018年度）の開設をはじめ、国際社会起業家プログラム（2021年度）、デジタルトランスフォーメーションプログラム（2021年度）、国際公共政策プログラム（2022年度）など、国際社会の変化に対応した特色ある教育プログラムの提供に努めている。また、本構想の重点地域をアフリカに据え、優秀な留学生の受け入れを推進してきた。事業開始前には9名だったアフリカ出身学生が、2023年度には65名（26ヵ国・地域）にまで増加し、多様性に満ちた教育・研究環境を創出している。

【Ⅱ. 事業期間での大学の成長（アウトカムとの繋がり）】

国際化の推進により、留学生の数だけでなく、さらに多様な国籍と背景を持つ学生や教職員が集う国際的な教育研究環境が形成されている。また、教育改革やガバナンス改革を通じて、教育改善活動への意識が高まり、エビデンスに基づいた大学運営が行われている。これにより、国内外の環境の変化に応じて大学が自ら変革する力が涵養され、志願者のニーズに沿った魅力的な教育プログラムの開発や教育改革、学生支援体制の拡充が進んでいる。その結果、学生の学びの充実や教育の質の向上が促進され、学生募集活動や外部資金の獲得につながる良いサイクルが形成されつつある。これにより、「国益」のみならず「世界益」となる人材を育成・輩出し、すべての国々への貢献を果たすことを実現している。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【Ⅰ. 事業全般について】

○ 国際色豊かなキャンパス

IMF、ADB、JICA など公的機関による奨学プログラムおよび協定校とのリンケージプログラムを通じて、2023年5月1日時点で**69ヵ国・地域から留学生を受け入れ、国際色豊かなキャンパスを実現している。**

○ 日本人学生の海外送り出し

JICA 青年海外協力隊事務局との国際人材育成事業に関する覚書の下に、国際社会起業家プログラムを開設した。途上国などで新規事業アイディアの実現可能性を探るフィールド実習をカリキュラムに組み込んでおり、日本人学生に占める**3か月以上研究派遣された大学院生数は0%（0人）から40.7%（11人）に急増している。**

○ 教育プログラムの国際通用性と質保証

英『エコノミスト』誌**2021年MBAランキング**（2021年1月発表）において、本学のMBAプログラムが日本から**単独でランクインを果たした（世界73位、アジア7位）**。トップ100校には本学の交換留学提携校も多数ランクされており、これらトップスクールとの学生交流も本学の魅力の一つ。さらに、Eduniversal Best Master & MBAs Ranking Worldwide 2021（2021年4月発表）では、**公共経営・政策分析プログラムが極東地域9位（国内2位）、国際開発学プログラム（経営学）が極東地域19位（国内4位）、MBAプログラムが極東地域10位（国内2位）に選ばれた。**

学生の活躍も目覚ましく、X-Culture Project 2022において、**国際経営学研究科の学生2名が優勝チームのメンバーに名を連ねた。**53ヵ国から6,000人を超える参加者が混成のグローバル・チームで多国籍企業のビジネスにおける実際の問題解決に取り組み、**1,032のレポートの中から最優秀に選ばれた。**さらに、公益財団法人国際保険振興会（FALIA）主催の留学生向け懸賞論文コンペティション”The FALIA Essay Competition 2022”において、本学の留学生4名が**第1位、第3位、努力賞を受賞した。**

さらに、2022年度にAACSBの認証更新の際に提出したContinuous Improvement Review Reportの内容が高く評価され、ビジネス教育の重要な要素である「経済」「環境」「社会」の中から、**「経済」の分野でソーシャルインパクトを与えている世界の大学として、The University of Alabamaとともに選出された。**加えて、2019年度に本学の国際経営学研究科修了生であり、株式会社富士ゼロックス総合教育研究所 代表取締役社長（当時）の小串記代氏、2024年度には国際経営学研究科 Zhang Zhang Yingying 教授が**AACSB インフルエンシャル・リーダーとして表彰された。**これは、AACSB 認定のビジネススクールの卒業生や教員の中から、**ビジネス界および社会全般にポジティブな変革をもたらす活動を行っている人々が選ばれる。**

【Ⅱ. コロナ禍への対応について】

● ハイブリッド授業の実施

2020年春学期から**オンライン授業を開始し、同年秋学期からは来日できない新入生などが同時に講義を受講できるハイブリッド授業を開始した。**どのような状況でも**最善の教育を提供できる体制**を大学全体で整えた。スムーズな授業運営のため、教職員向けにGoogle Classroomを活用したハイブリッド授業ワークショップを開催した。

● Special Summer Programの実施

2020年6月の修了式後、**新型コロナウイルス感染症の影響で母国へ帰国できない学生のために、7月および8月に特別授業を開講し、各教員による研究セミナーおよび論文指導、地域でのフィールドトリップなどを実施し、特別な学修の機会を提供した。**

● TA対象セミナーの実施

オンライン授業およびハイブリッド授業の導入により、**TAの役割がさらに重要視された。**このため、Faculty Development Sub-Committeeが**TAを対象にセミナーを開催し、ハイブリッド授業のサポート方法、ZoomおよびGoogle Classroomの使い方、授業運営・管理のヒントなどを共に学んだ。**

● オンライン授業についてのFaculty Developmentセミナーの実施

2020年度以降、断続的に実施してきたオンライン授業とハイブリッド授業の経験を踏まえ、各研究科から1名ずつの教員が、それらの成果や課題、解決方法、提案などを共有するための**Faculty Development セミナーを開催した。**